

1. 科目名(単位数)	保育カリキュラム論／保育・教育課程論 (2単位)	3. 科目番号	
2. 授業担当教員	関 容子		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>保育におけるカリキュラムの意義を示し、保幼小接続を念頭に置きつつ、その編成の仕方を実際の子どもの発達、生活に照らしながら理解する。保育は子どもの自発的な興味関心や個人差に応じて実践することを踏まえ、カリキュラムにおける全体的な計画の作成の意義を理解し、保育者の教育的意図を子どもの主体的な生活の中にどう反映したらよいか具体的な分るように指導計画を作成する。</p> <p>さらに、実践においては子どもの実態に対応しながら計画の修正をどのようにするか、一日の保育の評価反省をどうするかを扱いながら、保育における計画性と偶発性の双方の意味の理解を深める。ボトムアップによる計画作成の方法を長期指導計画と短期指導計画との関連から理解するようにする。以上を通して、保育所保育指針、幼稚園教育要領等に示されているカリキュラムの考え方を正しく理解し、実践に結びつける力を養う。</p>		
8. 学習目標	<p>1 カリキュラムについての基礎的理解ができるようになる。</p> <p>2 保育における計画—実践—評価（反省）の関係を理解できるようになる。</p> <p>3 全体的な計画・教育課程と指導計画との関係、および長期指導計画と短期指導計画の関係を理解し、実践に結びつけることが出来るようになる。</p> <p>4 長期指導計画、短期指導計画の立て方が分かり、一日の指導計画を作成する。</p> <p>5 保育実践の反省の仕方がわかり、計画の修正への過程を理解できるようになる。</p> <p>6 子どもの発達の把握と指導要録、保育児童要録の意義と書き方を理解できるようになる。</p>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>1. 事前学習に示された学習課題に取り組んで、授業に出席する。</p> <p>2. 授業内容の理解を促す指導計画の作成や小レポートを課すことがある。</p> <p>3. 課題（事後学習）をまとめる。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河邊貴子編著『新3法令対応 幼児教育・保育カリキュラム論』東京書籍、2019年 ・大豆生田啓友著『子ども主体の保育をつくる 56の言葉』Gakken 2025年 ・閣議決定・文部科学省・厚生労働省・内閣府 令和5年度最新版『幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 <p>（・幼稚園教育要領、同解説書。 ・保育所保育指針、同解説書。 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書。 （平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） その他、適宜資料を配布する。）</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1 全体的な計画・教育課程の目的内容及び、保育計画、指導計画の必要性を理解する。</p> <p>2 長期の指導計画、短期の指導計画の作成法と両者の関係を理解する。</p> <p>3 園の行事や日常の指導計画の立て方を理解することができる。</p> <p>4 実際に短期指導計画を作成できる。</p> <p>○評定の方法</p> <p>授業への参加度30%、小レポート・中間課題30%、期末レポート課題40%として総合的に判断する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>子どもの生活経験、興味関心、発達に応じた教育内容・保育内容となるよう、子どもの育ちをよく見て理解し、子どもの育ちにふさわしい保育が展開される指導計画を立案できる視点を養って欲しい。子どもの生活や遊びが充実し、生き生きと生活するために求められる保育者の感性や工夫、柔軟な発想、職員や保護者との連携が日々の計画に反映されるためには、どのような取り組みが考えられるか。実践事例を通して計画の意義や役割、評価について、グループワークを通して積極的に学んで欲しい。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション（授業概要の説明と進め方） 「保育の計画・幼児教育課程とは何か」	事前学習	教科書『新3法令対応 幼児教育・保育カリキュラム論』p.8まで読み理解する。
		事後学習	カリキュラム・マネジメントの考え方、資質能力の考え方についてまとめる。
第2回	「遊びを中心とした保育の展開における計画の意味と意義について理解する」	事前学習	教科書p.12まで読み理解する。
		事後学習	保育におけるカリキュラムの考え方について理解する。
第3回	「指導計画の種類と実際」	事前学習	教科書p.18まで読み理解する。
		事後学習	計画の種類と実践、保育との関連について理解する。
第4回	「幼稚園における教育課程/指導計画」①	事前学習	教科書p.22まで読み理解する。
		事後学習	幼児期の「遊び」を通して学ぶ生活から小学校教育の学びの接続となる「スタートカリキュラム」について理解する。
第5回	「幼稚園における教育課程/指導計画」②	事前学習	教科書p.28まで読み理解する。
		事後学習	特色ある、それぞれの幼稚園らしさを保障するための教育課程があることを学ぶ。

第6回	「保育所における計画と評価」①	事前学習	教科書 p.36 まで読み理解する。
		事後学習	保育所の生活の流れを理解し、3歳未満児の指導計画と3歳以上児の指導計画に違いがあることを理解する。
第7回	「保育所における計画と評価」②	事前学習	教科書 p.37. まで読み理解する。
		事後学習	保育の質の向上とPDCAサイクルの取り組みの関係を理解する。
第8回	「認定こども園における教育課程の特徴」①	事前学習	教科書 p.40 まで読み理解する。
		事後学習	認定こども園の特色について理解する。
第9回	「認定こども園における教育課程の特徴」②	事前学習	教科書 p.46 まで読み理解する。
		事後学習	園での生活時間が異なる子どもが混在するクラスの保育の留意点や、配慮点についての考えをまとめる。
第10回	「乳児保育のカリキュラムの実際」 「1歳以上3歳未満児のカリキュラムの実際」	事前学習	教科書 p.71 まで読み理解する。
		事後学習	乳児保育立案の観点と記録の実際について理解する。1歳以上3歳未満児の長期の指導計画と短期の指導計画の子どもを捉える視点と留意点について理解する。
第11回	「現場の保育者から保育現場におけるカリキュラム作成の実際を学ぶ」	事前学習	教科書 p.71 まで読み理解する。
		事後学習	この時期の長期の指導計画と短期の指導計画の子どもを捉える視点と留意点について理解する。
第12回	「3歳児のカリキュラムの実際」	事前学習	教科書 p.83 まで読み理解する。
		事後学習	教科書における子どもの姿の事例から、指導計画立案の視点と保育の見通しについて理解する。
第13回	「4歳児のカリキュラムの実際」 「5歳児のカリキュラムの実際」	事前学習	教科書 p.117 まで読み理解する。
		事後学習	一緒に遊びたい友だちと、イメージを共有しながら夢中になって遊ぶ4歳児の姿から、子どものイメージの幅が広がり、遊びが深まるためには、どのようなことが必要か、指導計画事例に自分なりの考えを落とし込んでみる。5歳児の友だちとルールのある遊びを楽しんだり、仲間と試行錯誤するなかで、遊びが充実するために必要な環境構成や援助について考える。 また、一人でじっくり集中して取り組む経験が保障されるための環境構成や配慮には、どのようなことが考えられるか、自分なりの考えをまとめる。
第14回	「異年齢保育の実際や配慮を必要とする子どもの指導計画」	事前学習	教科書 p.120 まで読み理解する。
		事後学習	教職員や保護者との連携、園の特色を表す計画、日々の計画との関係、異年齢児保育、配慮を必要とする子どもの指導案を立案する際の留意点と配慮、求められる指導計画について理解を深める。
第15回	授業の総括 まとめレポートの作成	事前学習	授業全体の学びを振り返る。
		事後学習	授業内容を振り返り、保育活動が充実し、発展する手がかりとなる発想や準備、評価、反省、考察の在り方について、事例を挙げてまとめレポートを作成する。